



希望に満ちて

さいたま市立大門小学校

自ら学ぶ子
だれとでも仲よくする子
進んできたえる子
人とのかわりを大切にする子

心の灯

校長 石黒 真愁子

もうすぐクリスマス。街はきらめくイルミネーションに彩られ、心の中にも灯がともる季節がやってきました。アメリカの小説家オー・ヘンリーの作品に、このクリスマスシーズンを舞台にした、「賢者の贈り物」という物語があります。

物語は、ある年のクリスマスの前の日に始まります。若い夫婦は、自分の大切にしているものを手放して、相手にとって最も素晴らしい価値あるものと思われるプレゼントを購入しました。妻は自分の美しい長い髪を手放し、夫は代々受け継がれてきた金の時計を手放しました。そして何と二人がその後購入したものは、美しい髪をすくための高価な櫛と、金の時計にぴったり似合うプラチナのチェーンだったのです。二人のプレゼントは、一見すれ違ってしまったように思えますが、実はプレゼントを購入するまでの二人の心情を考えることで、心の底から相手のことを思う温かな愛情に触れることができます。

「相手にとって何が最もよいのだろう」と深く相手を思いやることは、なかなか難しいものです。人は、相手を思いやっているようでも、どうしてもひとりよがりになりがちです。相手にとって本当に大切なことを察知する感性の背景には、深い人間理解があると思います。

11月16日に行われたPTC鑑賞教室でも、「思いやりは 人間の強さ、思いやりは やさしさ、思いやりは 心」をテーマにしたお芝居「風の童子」が本校体育館で上演されました。子どもたちは、お芝居を通して本当のやさしさや勇気って何だろう、と考えている様子でした。やさしく、思いやりのある大門小の子どもたちが、さらに豊かな心をもって生活を築いていってくれることを期待しています。

さて、早いもので、今年も残すところあと1ヶ月です。私自身も、この4月から8か月を振り返れば、保護者や地域の皆様、そして大門小の子どもたちや教職員の方々に温かく支えられ、みなさんの思いやりに支えられ、過ごしてきたことを痛切に感じ、感謝の思いが溢れてきます。

本当にありがとうございました。

さらに、2学期にも、活気あふれるイベントがたくさんありましたが、保護者や地域の皆様には、運動会や大門まつりなど、子どもたちがさまざまな体験をする機会を設けていただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

「実りの秋」の言葉どおり、一人ひとりの子どもたちの心の中で努力の成果が実を結んでくれていることを信じたいと思います。

子どもたちは授業だけでなく、イベントに取り組んでいるときも、実にいい顔をします。例えば音楽会では一心に集中している真剣さが伝わってくる顔、運動会や時間走で歯を食いしばってがんばる顔、大門まつりで一心不乱に楽しむ顔一。

来年も子どもたちの「いい顔」にもっともっと出会いたいと思っています。どうか引き続き、子どもたちのためにお力をお貸しくくださいますようお願い申し上げます。

そして、冬休みは、子どもたちにとって日本の伝統行事や行事食に触れる機会の多い時期です。こうした節目を大切に、この1年を振り返りながら、新たな年への抱負をしっかりと心に刻み、新年を迎えて欲しいと切に願っています。